施設だより

ひこね市文化プラザ

☎26-8601　FAX 26-8602
8月の休館日：　1(月)、8(月)、15(月)、22(月)、29(月)

★ ★ ★　注目のイベント　★★ ★

9月29日(木)、10月13日(木)、27日(木)　19：00～　メッセホール
ひこね市民大学講座2011　歴史手習塾　セミナー9
「江戸庶民の愉しみ　おもしろ講座」
―江戸のユーモアと粋を学ぶ―
セミナー9-1「江戸しぐさ」、セミナー9-2「江戸の大衆芸能」、セミナー9-3「江戸のグルメ」
自由　一般3,000円、SP価格1,800円
※初回時残席がある場合、分売します。

8月からの催し物

8月7日(日)　19：00～　グランドホール
ワールド・ミュージック・トリップVol.2 ジャズ・ライブ
「マンハッタン・ジャズ・クインテット」
指定　一般3,900円、WMT会員価格3,300円、SP価格2,000円

8月13日(土)　13：00～　メッセホール
ひこね市民大学講座2011　歴史手習塾　特別企画
ジュニア歴史テナライ塾-歴史から学ぶ志-
自由　500円（小・中学生対象※保護者有料にて聴講可）【申込受付中】

8月13日(土)　17：30～　百年豆腐とうりん(戦国)・料亭小島（江戸）
ひこね市民大学講座2011 歴史手習塾 特別企画
食談（戦国：小和田哲男さん、江戸：大石学さん）
２会場で歴史談義を開催します。
自由　席料10,000円【定員各会場25人（先着順）】

9月11日(日)　14：30～　グランドホール
NHK公開番組　みんなでDE どーもくん
指定　入場無料（要事前申込）
※詳しくは広報ひこね７月15日号をご覧ください。

9月16日(金)　19：00～　エコーホール
ワールド・ミュージック・トリップVol.3
フレンチ・カフェミュージック
「ル・バルーシュ with かとうかなこ」
指定　一般3,900円、WMT会員価格3,300円、SP価格2,000円

10月14日(金)　19：00～　グランドホール２階ロビー
ワールド・ミュージック・トリップ　特別企画　ロビーコンサート
「ヨーラン・モンソン―北欧の笛の魔術師―」
指定　一般500円、WMT会員価格400円、中学生以下無料【８月14日(日)発売】

最新発売情報

12月７日(水)　19：00～　グランドホール
ワールド・ミュージック・トリップVol.4　3ダンススタイル
「ザ・ステップクルー」
指定　一般3,900円、WMT会員価格3,300円、SP価格2,000円【８月14日(日)発売】

増席販売決定！（増席数は100席程度）
9月24日(土)　14：00～　グランドホール
井上道義＆OEK with 辻井伸行
「これが井上道義の交響楽だ！！」
A席4,800円、OEK会員価格4,000円のみ【８月６日(土)発売】
指定　※初日、電話予約のみ（一人４枚まで）

※SP価格…スチューデント・パスポート価格（登録無料の学生会員価格）
※WMT会員価格…ワールド・ミュージック・トリップ会員価格

チケットのお申し込み、お問い合わせは
チケットセンター　☎27-5200（9：00～19：00）
インターネットでも購入いただけます。http://bunpla.jp/

彦根城博物館

☎22-6100　FAX 22-6520
8月の休館日はありません。
※8月30日(火)～9月1日(木)は展示替えのため、展示室を一部閉室しています。

開館時間　8：30～17：00（入館は16：30まで）

テーマ展

7月29日(金)～８月30日(火)
シリーズ 戦国 巻の4
「井伊の赤備え ― 朱と金の勇姿 ―」

井伊家歴代当主や藩士の甲冑、刀装、旗印、馬印など、武勇で聞こえた「井伊の赤備え」の軍装を一堂に展示します。

▲井伊直政所用具足

◀井伊直孝所用具足

常設展の名品

ほんもの との出会い
― 常設展示の名品―

常設展示「“ほんもの”との出会い」では、譜代大名筆頭・井伊家に伝来した名宝を中心に80点あまりを展示しています。

～８月29日(月)
井伊直弼書状　長野義言宛て

13代井伊直弼が、大老就任直後に腹心の長野に宛てた書状。

直弼が条約調印問題など多くの課題に立ち向かう姿がうかがえます。

祭

ときの至手箱
～博物館からのメッセージ～

甲冑を彩る威毛

井伊家歴代当主の甲冑の大きな特徴は、全身を朱色とする点です。加えて、長大な金の天衝脇立が兜にそびえ立つこと、そして、全体的に無駄な装飾を省き、実戦を意識した作りとなっていることが挙げられます。

これらの特徴は全て、彦根藩井伊家の基礎を築いた、初代直政と2代直孝の甲冑に倣ったもので、井伊家当主は代々、幕末に至るまでほぼ同じ仕様の甲冑を誂えたのでした。

一方で、細部に注目すると、1領1領の違いが見えてきます。井伊家の家紋である橘の実をあしらった金具の意匠は、実に多様なバリエーションがありますし、全国的に復古調の甲冑が流行した江戸時代後期には、大袖という古いタイプの袖の形式を採用したものも登場します。井伊家歴代甲冑には、代々踏襲すべき箇所と、それぞれの裁量のきく箇所があったのです。

バリエーションの多さは、甲冑の部品を上下に綴る緒「威毛」の色が最たるものでしょう。「威」とは、部品の穴に緒を通すこと、またはそのものを言い、「緒通し」がその語源と言われています。

威毛の素材は一般に、組糸、鹿皮、綾の3種類があります。その色は実に多彩で、目に鮮やかな赤色、水色に染めた浅葱色、浅葱色より濃く染め上げた縹色、真っ白な卯の花を思わせる卯の花色など、染めて色を出すだけでなく、煙で燻すなどして多様な色を生み出しています。

ここで、井伊家歴代甲冑の威毛を、記録をもとに具体的に見ていきましょう。江戸時代中頃の明和4年（1767）、彦根城天守には、初代直政から8代直定までと、当主の子息たちの甲冑が保管されていました。合計21領のうち、10領が黒糸威の甲冑で、その内訳は、初代直政が2領、2代直孝が5領、残り3領は、直孝の子息である3代直澄と直時、直寛のものです。この記録で見る限り、黒糸威の甲冑は、初期に集中すると見ることができます。

4代直興の甲冑の仕様を記した「御武具覚留帳」（八木原太郎右衛門家文書）には、直興が新調させた3領の甲冑が記されており、その威毛はそれぞれ、紅糸、紺糸、革糸（緑をおびた紺）とあり、黒糸のものは含まれていません。

このうち革糸の甲冑は、兜以外を新調し、兜には直孝所用であったものを用いています。興味深いことに、採り入れた直孝の兜の威毛を革糸に取り替え、自身の甲冑の威毛に統一させています。

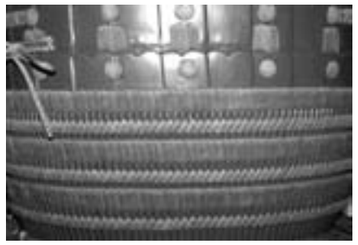
また、歴代当主の中でも、特に直孝に対する尊敬の念が強い13代直弼の甲冑は、直孝の甲冑の形式を最も念入りに踏襲しているものの、威毛は紅糸を用いています。

以上のことを総合すると、黒糸の威毛は、4代直興の頃から用いられることが少なくなったように見受けられます。威毛の色は、その時代や着用する本人の意向が反映されている可能性があるといえるでしょう。

このように、ものを観察する際には、全体を見渡すこともちろん重要ですが、細部を丹念に見ていくことによって、その時代や個人の美意識、価値観など、実に色々なことが見えてきます。

（彦根城博物館学芸員　真野順之）

▶2代直孝所用甲冑【燻韋（ふすべがわ）威】


▶同部分（燻韋の威毛）

写真の作品は、シリーズ戦国 巻の4「井伊の赤備え―朱と金の勇姿―」で7月29日(金)～8月30日(火)（期間中無休）まで展示します。

第180回